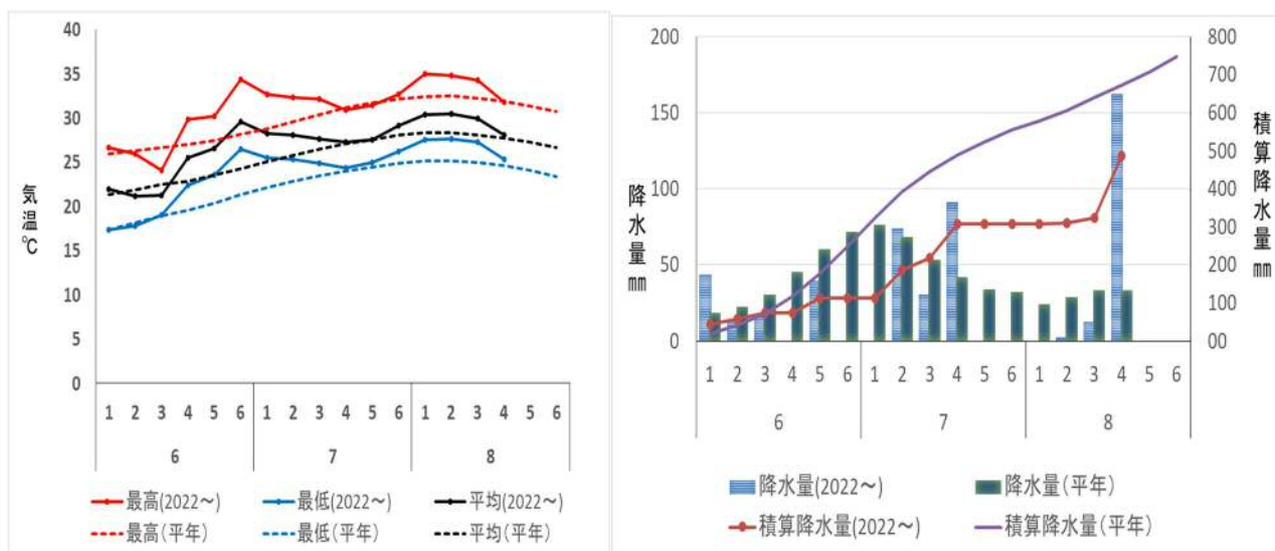


## 大豆の開花期以降の管理

令和4年 8月22日  
北九州普及指導センター  
J A 北 九

6月から8月にかけては高温少雨傾向でしたが、生育は概ね順調で、開花期は平年に比べ早く6月18日播種は8月5日頃、7月10日播種は8月22日頃となっています。

ハスモンヨトウなど害虫の発生は特に目立ちませんが、今後の発生に注意してください。



## 【6月～8月4半旬の気温と降水量の推移】

## 今後の管理

## 排水対策

本暗きよの栓を開け、中耕・培土でできた溝と排水口を確実に繋いで、早めに地表水の排水を行いましょう。

## 中耕・培土

7月下旬以降の播種で中耕・培土を終えていない場合は、5～6葉期頃に1回実施してください。(開花期以降の実施は、根の損傷や植物体を傷めて着莢数を減少させます。)但し、中耕前に降雨が少なく、乾燥が激しい場合は、要水確保のため中耕を控えましよう。

### ハスモンヨトウ

特に目立った発生はみられませんが、白変葉の発生が多い場合は、早めに補正防除を行いましょう（フェロモントラップの誘殺数ピークの10日後が防除適期です。今後の発生情報を参考にしてください。なお、例年は8月下旬～9月上旬と9月中下旬が防除時期です。）

	農薬名	10a当たり 使用量 希釈倍率	使用液量	ハスモン ヨトウ	カメムシ 類	使用時期 (収穫前)	使用回数
粉剤	トレボン粉剤DL	4kg	—	○	○	14日前まで	2回
液剤	プレバソフロアブル5	4,000倍	100～300ℓ	◎		7日前まで	2回
	トレボンEW	1,000倍		○	○	14日前まで	2回

※ ◎：効果が高い、○：効果あり

### 雑草対策

イネ科雑草は、下記の除草剤が使えます。広葉雑草対策の大豆バサラン液剤、アタックショット乳剤は、開花期以降は使用できないため、ホソアオゲイトウ等の大型雑草は抜き取りを行います。

除草剤名	10a 当たり 使用量	希釈水量	使用時期
ポルトフロアブル	200～300mℓ	50～100ℓ	イネ科雑草3～10葉期 (収穫30日前まで)

※風向き等を考慮しながら、周囲の水稻に絶対かからないように注意しましょう。

### 子実肥大期の乾燥対策（夏期高温、多照、少雨対策）

大豆は、開花始めから莢実の伸長肥大期までが、乾燥に最も弱い時期です。

- ・ 晴れの日が続く予報の場合は、本暗渠の栓は閉めて、乾燥防止に努めましょう。
- ・ 周囲溝を設置している場合は、可能であれば周囲溝にかん水を実施して下さい。
- ・ 用排水路の水位が高い場合は、本暗渠の排水溝から水を逆流させ、地下水位を高くしてください。

最も有効な乾燥対策としてうね間かん水があります。

### うね間かん水のできる条件および方法

- ・ 条件：大豆の生育がよく、入水口とうね溝が連結していること。
- ・ 方法：晴天が7日くらい続き、畝間の土壌表面が白乾し始めた頃にかん水する。
- ・ コツ：本暗渠の栓を閉める。夕方～夜間に行く。

※うね間かん水には、多量の水と多くの時間が必要となりますので、地域で十分話し合っ、実施して下さい。